

浮遊

ミスミアヤカ

灰色の空に月と星

真昼の空に月と星

正体はパラシュートとヒトであること

母親に言われて気がついた

日曜の十五時

三日月のような形のパラシュートがヒトを運ぶ

月とはほど遠いヒト

ヒトとはほど遠い月

星と星の距離はどんなに近くに見えても

本当は果てしなく遠くにあることを知ったとき

悲しいのに美しいと思えてそれが「切ない」という感情であることに気づいたので

わたしをどこかへ運んで欲しい

川や海や空を渡って

暮れていく太陽を追いかけたいのです

雨に打たれても

風に吹かれても

ゆらゆらと浮かんでいたい

三日月の形のパラシュートでわたしの命を運んで欲しい

永遠に触れられないほどに遠くへ

どこかへ